

令和6年度決算報告書

自 令和6年4月1日
至 令和7年3月31日

公益財団法人 日本防災通信協会

貸借対照表
令和7年3月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	59,482	48,459	11,023
諸預金	42,345,132	70,901,895	△ 28,556,763
未収金	242,976,167	244,252,118	△ 1,275,951
前払費用	1,580,837	1,673,517	△ 92,680
貯蔵品	2,446,346	2,222,335	224,011
立替金	0	169,495	△ 169,495
仮払金	0	50,000	△ 50,000
流動資産合計	289,407,964	319,317,819	△ 29,909,855
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
運用財産預金	31,728,590	82,290,928	△ 50,562,338
運用財産有価証券	813,684,330	897,174,270	△ 83,489,940
特定資産合計	845,412,920	979,465,198	△ 134,052,278
(2) その他固定資産			
建物附属設備	228,980	271,471	△ 42,491
什器備品	5,066,436	4,575,101	491,335
ソフトウェア	2,982,768	1,002,534	1,980,234
電話加入権	51	51	0
差入保証金	11,729,600	11,729,600	0
その他固定資産合計	20,007,835	17,578,757	2,429,078
固定資産合計	865,420,755	997,043,955	△ 131,623,200
資産合計	1,154,828,719	1,316,361,774	△ 161,533,055
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	44,093,709	50,249,067	△ 6,155,358
前受金	14,520	20,790	△ 6,270
未払法人税等	402,000	402,000	0
未払消費税	9,638,900	10,164,500	△ 525,600
預り金	4,280,750	10,262,015	△ 5,981,265
賞与引当金	39,567,897	36,266,552	3,301,345
流動負債合計	97,997,776	107,364,924	△ 9,367,148
2. 固定負債			
退職給付引当金	64,701,216	73,282,696	△ 8,581,480
固定負債合計	64,701,216	73,282,696	△ 8,581,480
負債合計	162,698,992	180,647,620	△ 17,948,628
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	992,129,727	1,135,714,154	△ 143,584,427
(うち特定資産への充当額)	(845,412,920)	(979,465,198)	△ (134,052,278)
正味財産合計	992,129,727	1,135,714,154	△ 143,584,427
負債及び正味財産合計	1,154,828,719	1,316,361,774	△ 161,533,055

貸借対照表内訳表

令和7年3月31日現在

(単位:円)

科目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合計
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金		59,482		59,482
諸預金	14,246,672	28,098,460		42,345,132
未収金	242,976,167			242,976,167
会計間振替勘定		96,789,414	△ 96,789,414	0
前払費用		1,580,837		1,580,837
貯蔵品	2,446,346			2,446,346
流動資産合計	259,669,185	126,528,193	△ 96,789,414	289,407,964
2. 固定資産				
(1) 特定資産				
運用財産預金		31,728,590		31,728,590
運用財産有価証券		813,684,330		813,684,330
特定資産合計		845,412,920		845,412,920
(2) その他固定資産				
建物附属設備	224,171	4,809		228,980
什器備品	4,960,041	106,395		5,066,436
ソフトウェア	2,920,130	62,638		2,982,768
電話加入権	50	1		51
差入保証金	11,483,279	246,321		11,729,600
その他固定資産合計	19,587,671	420,164		20,007,835
固定資産合計	19,587,671	845,833,084		865,420,755
資産合計	279,256,856	972,361,277	△ 96,789,414	1,154,828,719
II 負債の部				
1. 流動負債				
未払金	12,685,853	31,407,856		44,093,709
前受金	14,520			14,520
会計間振替勘定	96,789,414		△ 96,789,414	0
未払法人税等	402,000			402,000
未払消費税	9,638,900			9,638,900
預り金		4,280,750		4,280,750
賞与引当金		39,567,897		39,567,897
流動負債合計	119,530,687	75,256,503	△ 96,789,414	97,997,776
2. 固定負債				
退職給付引当金	64,054,204	647,012		64,701,216
固定負債合計	64,054,204	647,012		64,701,216
負債合計	183,584,891	75,903,515	△ 96,789,414	162,698,992
III 正味財産の部				
1. 一般正味財産	95,671,965	896,457,762		992,129,727
(うち特定資産への充当額)		(845,412,920)		(845,412,920)
正味財産合計	95,671,965	896,457,762		992,129,727
負債及び正味財産合計	279,256,856	972,361,277	△ 96,789,414	1,154,828,719

正味財産増減計算書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益	12,786,607	9,955,582	2,831,025
運用財産受取利息	12,786,607	9,955,582	2,831,025
② 事業収益	869,255,467	882,007,160	△ 12,751,693
運用指導収益	741,722,067	748,485,360	△ 6,763,293
保守指導収益	114,326,800	115,903,200	△ 1,576,400
通報装置普及収益	13,206,600	17,618,600	△ 4,412,000
③ 雑収益	476,704	2,921,714	△ 2,445,010
受取利息	47,243	1,256	45,987
雑収益	429,461	2,920,458	△ 2,490,997
経常収益計	882,518,778	894,884,456	△ 12,365,678
(2) 経常費用			
① 事業費	926,039,472	918,652,014	7,387,458
役員等報酬	55,740,159	55,740,159	0
給料手当	496,497,948	494,762,241	1,735,707
退職給付費用	29,227,005	28,649,344	577,661
福利厚生費	95,790,257	96,569,103	△ 778,846
賞与引当金繰入額	39,172,218	35,903,886	3,268,332
運用指導費	29,902,862	27,570,166	2,332,696
機関紙発行費	24,100,247	24,060,136	40,111
広報費	16,467,073	17,142,821	△ 675,748
システム関係費	4,340,205	4,240,916	99,289
会議費	3,989,340	3,783,803	205,537
旅費交通費	82,280,396	81,852,884	427,512
通信運搬費	4,155,943	6,533,492	△ 2,377,549
減価償却費	6,131,779	2,923,844	3,207,935
什器備品費	327,669	198,719	128,950
消耗品費	2,693,151	2,992,468	△ 299,317
印刷図書費	4,500,520	5,929,522	△ 1,429,002
賃借料	17,542,496	18,001,814	△ 459,318
事務所費	9,923,467	8,820,161	1,103,306
渉外費	44,065	9,180	34,885
諸謝金	1,974,313	1,778,582	195,731
租税公課	374,553	255,102	119,451
支払利息	34,664	0	34,664
雑費	829,142	933,671	△ 104,529

科目	当年度	前年度	増減
② 管理費	15,609,450	15,543,358	66,092
役員等報酬	7,102,086	7,113,223	△ 11,137
給料手当	5,015,131	4,997,599	17,532
退職給付費用	295,223	289,388	5,835
福利厚生費	967,579	975,446	△ 7,867
賞与引当金繰入額	395,679	362,666	33,013
システム関係費	43,841	42,838	1,003
会議費	40,297	38,221	2,076
旅費交通費	663,552	660,104	3,448
通信運搬費	41,980	65,995	△ 24,015
減価償却費	61,938	29,534	32,404
什器備品費	3,310	2,008	1,302
消耗品費	27,204	30,227	△ 3,023
印刷図書費	45,460	59,895	△ 14,435
賃借料	505,340	518,571	△ 13,231
事務所費	370,586	329,384	41,202
渉外費	446	93	353
諸謝金	19,943	17,966	1,977
租税公課	1,128	768	360
支払利息	351	0	351
雑費	8,376	9,432	△ 1,056
経常費用計	941,648,922	934,195,372	7,453,550
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 59,130,144	△ 39,310,916	△ 19,819,228
運用財産評価損益	△ 84,052,278	△ 52,509,380	△ 31,542,898
評価損益等計	△ 84,052,278	△ 52,509,380	△ 31,542,898
当期経常増減額	△ 143,182,422	△ 91,820,296	△ 51,362,126
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
什器備品除却損	5	228	△ 223
経常外費用計	5	228	△ 223
当期経常外増減額	△ 5	△ 228	223
税引前一般正味財産増減額	△ 143,182,427	△ 91,820,524	△ 51,361,903
法人税・住民税及び事業税	402,000	402,000	0
当期一般正味財産増減額	△ 143,584,427	△ 92,222,524	△ 51,361,903
一般正味財産期首残高	1,135,714,154	1,227,936,678	△ 92,222,524
一般正味財産期末残高	992,129,727	1,135,714,154	△ 143,584,427
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	992,129,727	1,135,714,154	△ 143,584,427

正味財産増減計算書内訳表

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

(単位:円)

科目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
①特定資産運用益		12,786,607		12,786,607
運用財産受取利息		12,786,607		12,786,607
② 事業収益	869,255,467			869,255,467
運用指導収益	741,722,067			741,722,067
保守指導収益	114,326,800			114,326,800
通報装置普及収益	13,206,600			13,206,600
③雑収益	476,704			476,704
受取利息	47,243			47,243
雑収益	429,461			429,461
経常収益計	869,732,171	12,786,607		882,518,778
(2) 経常費用				
① 事業費	926,039,472			926,039,472
役員等報酬	55,740,159			55,740,159
給料手当	496,497,948			496,497,948
退職給付費用	29,227,005			29,227,005
福利厚生費	95,790,257			95,790,257
賞与引当金繰入額	39,172,218			39,172,218
運用指導費	29,902,862			29,902,862
機関誌発行費	24,100,247			24,100,247
広報費	16,467,073			16,467,073
システム関係費	4,340,205			4,340,205
会議費	3,989,340			3,989,340
旅費交通費	82,280,396			82,280,396
通信運搬費	4,155,943			4,155,943
減価償却費	6,131,779			6,131,779
什器備品費	327,669			327,669
消耗品費	2,693,151			2,693,151
印刷図書費	4,500,520			4,500,520
賃借料	17,542,496			17,542,496
事務所費	9,923,467			9,923,467
渉外費	44,065			44,065
諸謝金	1,974,313			1,974,313
租税公課	374,553			374,553
支払利息	34,664			34,664
雑費	829,142			829,142

	公益目的事業会計	法人会計	内部取引	合計
② 管理費		15,609,450		15,609,450
役員等報酬		7,102,086		7,102,086
給料手当		5,015,131		5,015,131
退職給付費用		295,223		295,223
福利厚生費		967,579		967,579
賞与引当金繰入額		395,679		395,679
システム関係費		43,841		43,841
会議費		40,297		40,297
旅費交通費		663,552		663,552
通信運搬費		41,980		41,980
減価償却費		61,938		61,938
什器備品費		3,310		3,310
消耗品費		27,204		27,204
印刷図書費		45,460		45,460
賃借料		505,340		505,340
事務所費		370,586		370,586
渉外費		446		446
諸謝金		19,943		19,943
租税公課		1,128		1,128
支払利息		351		351
雑費		8,376		8,376
経常費用計	926,039,472	15,609,450		941,648,922
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 56,307,301	△ 2,822,843		△ 59,130,144
運用財産評価損益		△ 84,052,278		△ 84,052,278
評価損益等計		△ 84,052,278		△ 84,052,278
当期経常増減額	△ 56,307,301	△ 86,875,121	0	△ 143,182,422
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0		0
(2) 経常外費用				
什器備品除却損	5	0		5
経常外費用計	5	0		5
当期経常外増減額	△ 5	△ 0		△ 5
税引前当期一般正味財産増減額	△ 56,307,306	△ 86,875,121		△ 143,182,427
法人税、住民税及び事業税	402,000			402,000
当期一般正味財産増減額	△ 56,709,306	△ 86,875,121		△ 143,584,427
一般正味財産期首残高	152,381,271	983,332,883		1,135,714,154
一般正味財産期末残高	95,671,965	896,457,762		992,129,727
Ⅱ 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0		0
指定正味財産期首残高	0	0		0
指定正味財産期末残高	0	0		0
Ⅲ 正味財産期末残高	95,671,965	896,457,762		992,129,727

財 産 目 録
令和7年3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額	
(流動資産)					
	現金 諸預金	手元保管	運転資金として	59,482	
		普通預金	運転資金として	42,345,132	
		みずほ銀行麹町支店ほか		28,098,460	
		支部現金等みずほ銀行ほか		14,246,672	
	未収金	当年度収益の未収金分		242,976,167	
		テルウェル東日本(株)ほか	運用指導に係る未収金	209,516,697	
		〃	保守指導に係る未収金	30,722,890	
		〃	非常通報装置普及に係る未収金	2,722,720	
		テルウェル西日本(株)ほか	防災通信有償分等に係る未収金	13,860	
	前払費用	当年度に支出した次年度費用		1,580,837	
		大星ビル管理(株)ほか	管理的業務に係る前払費用	1,580,837	
	貯蔵品	当年度期末棚卸高		2,446,346	
		防犯DVD	公益目的事業に係る貯蔵品	2,117,463	
		パンフレットほか	公益目的事業に係る貯蔵品	328,883	
流動資産合計				289,407,964	
(固定資産)					
特 定 資 産	普通預金 定期預金 有価証券	みずほ銀行麹町支店	管理的業務を賄うための運用目的の特定資産	845,412,920	
		みずほ銀行麹町支店	管理的業務を賄うための運用目的の特定資産	1,728,590	
		野村證券株式会社	管理的業務を賄うための運用目的の特定資産	30,000,000	
		(利付国債144回ほか)		457,502,330	
		SMBC日興証券株式会社	管理的業務を賄うための運用目的の特定資産	240,207,000	
		(利付国債177回ほか)			
		大和証券株式会社	管理的業務を賄うための運用目的の特定資産	40,975,000	
		(利付国債180回)			
	みずほ証券 (第7回愛知県公募公債)		管理的業務を賄うための運用目的の特定資産	75,000,000	
	その他固定資産				
	建物附属設備	間仕切り工事	公益目的事業(97.9%)及び管理的業務(2.1%)で使用	20,007,835	
				228,980	
	什器備品	会議室テーブル・応接セットほか	公益目的事業(97.9%)及び管理的業務(2.1%)で使用	5,066,436	
	ソフトウェア	PCA公益法人会計更新	公益目的事業(97.9%)及び管理的業務(2.1%)で使用	2,982,768	
	電話加入権	本部5回線、支部46回線	公益目的事業(97.9%)及び管理的業務(2.1%)で使用	51	
	差入保証金	千代田区麹町2丁目14番2ほか 麹町NKEビルに対する保証金ほか	公益目的事業(97.9%)及び管理的業務(2.1%)で使用	11,729,600	
固定資産合計				865,420,755	
資産合計				1,154,828,719	

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動負債)				
	未払金	当年度経費の未払分 東映株式会社ほか 佐川急便株式会社ほか	公益目的事業に係る未払金 管理的業務に係る未払金	<u>44,093,709</u> 13,503,153 30,590,556
	前受金	次年度の収益前受 ラコリス株式会社ほか	運用指導等に係る前受金	<u>14,520</u>
	未払法人税等		公益目的事業に係る均等割	<u>402,000</u>
	未払消費税	麹町税務署	公益目的事業及び管理的業務に係る確定消費税	<u>9,638,900</u>
	預り金	役職員からの預り金	公益目的事業及び管理的業務に従事する役職員の源泉所得税・住民税等	<u>4,280,750</u>
	賞与引当金		公益目的事業及び管理的業務に従事する職員の賞与に係る引当金	<u>39,567,897</u>
流動負債合計				97,997,776
(固定負債)				
	退職給付引当金	役職員に対するもの	公益目的事業及び管理業務に従事する役職員の退職金	<u>64,701,216</u>
固定負債合計				64,701,216
負債合計				162,698,992
正味財産				1,154,828,719

附 属 明 細 書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記2に記載しております。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科 目	期 首 残 高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞 与 引 当 金	36,266,552	39,567,897	36,266,552		39,567,897
退職給付引当金	73,282,696	29,522,228	38,103,708		64,701,216

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

「公益法人会計基準」(平成20年4月11日、平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会)を採用している。

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券並びに子会社株式及び関連会社株式以外の有価証券

① 時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法を採用している。

② 時価のないもの

移動平均法による原価法を採用している。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入による原価法を採用している。

(3) 固定資産の減価償却

① 有形固定資産

定率法を採用している。

② 無形固定資産

定額法を採用している。

③ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用している。

(4) 賞与引当金の計上基準

職員に対する賞与の支給に備え、賞与支給見込額の当事業年度負担額を計上している。

(5) 退職給付引当金の計上基準

役員、職員の退職金の支給に備えるために、自己都合退職による期末要支給額の全額を計上している。

(6) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外の重要性の乏しいファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借処理に係る方法に準じた会計処理によっている。

(7) 消費税等の会計処理

税抜方式によっている。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
運 用 財 産 預 金	82,290,928	0	50,562,338	31,728,590
運 用 財 産 有 価 証 券	897,174,270	0	83,489,940	813,684,330
合 計	979,465,198	0	134,052,278	845,412,920

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳はつぎのとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
運 用 財 産 預 金	31,728,590		(31,728,590)	
運 用 財 産 有 価 証 券	813,684,330		(813,684,330)	
合 計	845,412,920	0	(845,412,920)	

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建 物 附 属 設 備	2,515,000	2,286,020	228,980
什 器 備 品	21,668,286	16,601,850	5,066,436
ソ フ ト ウ ェ ア	5,378,000	2,395,232	2,982,768
合 計	29,561,286	21,283,102	8,278,184

5. 関連当事者との取引の内容

該当する取引はない。

独立監査人の監査報告書

令和7年5月23日

公益財団法人 日本防災通信協会
理 事 会 御 中

監査法人 不二会計事務所

東京都台東区

代 表 社 員
業務執行社員 公認会計士

水谷 章



<財務諸表等監査>

監査意見

当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づく監査に準じて、公益財団法人日本防災通信協会の令和6年4月1日から令和7年3月31日までの令和6年度の貸借対照表、損益計算書（公益認定等ガイドラインⅠ-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査し、あわせて、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書並びに財産目録のうち意見の対象とされていない部分である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

<財産目録に対する意見>

財産目録に対する監査意見

当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づく監査に準じて、公益財団法人日本防災通信協会の令和7年3月31日現在の令和6年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

利害関係

法人と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監 査 報 告

公益財団法人 日本防災通信協会

理事長 横 内 泉 殿

私ども監事は、令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日までの令和 6 年度における会計及び業務の監査を行い、その結果を次のとおり報告する。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、公認会計士から監査の手続き及び監査結果等について説明を求めるとともに、帳簿並びに関係書類の閲覧、調査を行い、当該事業年度における計算書類及びその附属明細書並びに財産目録について検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他会議に出席し、理事からの業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧等、必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査の結果

- (1) 公認会計士である監査法人不二会計事務所の監査の方法及び監査の結果は妥当である。
- (2) 事業報告の内容は法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認める。
- (3) 理事の職務執行について、法令もしくは定款に照らし違反する事実は認められない。

令和 7 年 5 月 27 日

公益財団法人 日本防災通信協会

監事 出 原 健 三



監事 西 村 真

